

## 「子の年の少子化対策」

平成20年、新しい年が始まりました。

干支も改まって最後尾の亥年から、ふりだしに戻って先頭に行く子年です。

「干支の子」と「子どもの子」は、字が同じでもその成り立ちは全く別系統だそうですが、ねずみは、子どもをたくさん産み、成長するという事から「増える」という意味で縁起がよい干支として親しまれています。

わが国の最大の課題、懸案事項は少子化です。少しでもこの干支にあやかって、子どもが多く生まれ育つような年になれば素晴らしいのですが、現実はその簡単にはまいりません。

高松市でも、より良い子育て環境の整備を目指して、ファミリー・サポート・センターの開設やブックスタート、フードスタートを始めとした各種事業などの展開を行っていますが、最終的には、地域社会において、みんなで子どもを大事に育てよう、協力して子育てに力を貸そう、という共通理解ができることが肝心だと思っています。

その意味で、東京大学の神野直彦先生に教えていただいた、スウェーデンの中学校の社会科の教科書に載っている私の好きな詩をご紹介します。以前、皇太子殿下が感動され、発表されたことでも知られる詩です。

多くの市民の皆様には、地域の子どもに対して温かい目を注いでいただきたいと思います。

子ども ドロシー・ロー・ノルト

批判ばかりされた 子どもは  
非難することを おぼえる

殴られて大きくなった 子どもは

力にたよることを おぼえる

笑いものにされた 子どもは

ものを言わずにいることを おぼえる

皮肉にさらされた 子どもは

鈍い良心の もちぬしとなる

しかし、激励をうけた 子どもは

自信を おぼえる

寛容にであつた 子どもは

忍耐を おぼえる

賞賛を受けた 子どもは

評価することを おぼえる

フェアプレーを経験した 子どもは

公正を おぼえる

友情を知る 子どもは

親切を おぼえる

安心を経験した 子どもは

信頼をおぼえる

可愛がられ 抱きしめられた 子どもは

世界中の愛情を感じとることを おぼえる

〔出典〕『あなた自身の社会 スウェーデンの中学教科書』(新評論)